

門 1
類 6
項 3
號

普通
受第 9 / 種
12/7.17

附屬書類添附

歐裔

第一課 左

公第七七號

大正於前年六月七日

臨時代理

在波多利國
臨時代理公使 井田守之



級込名
シヤイキト
及
シヤイキ
シヤイキ

外務大臣 伴 壽 内 田 康 邦 殿

第 於 西 田 閣 國 共 産 党 大 會 於 今 同 見
領 袖 一 邊 說 要 方 報 告 一 件

別 紙 依 本 書 記 實 事 提 出 記 頭 記 報 告 書
若 進 呈 閣 下 查 閱 亦 祈 交 呈 致 具

本 信 尚 未 送 達 也

英、佛、德、美、法、日、中、露、印、
荷、土、皇、國、領、事、館、

茅拾貳回共產黨大會ニ於ケル
同党領袖ノ演説要旨

露国共產黨員中純正共產主義者中
ニハレニシテ新経済政策ニ對シ衷心ヨリ心服
セザルモノアリ。ソレニ對シテ聯合共和國条約（本年
二月七日附政公オカニ締結）ニヨリ關係セザルモノ邊
境諸國中不同条約ニ對シ不平ヲ抱ケモノアリ。
ソレヲシテ等ノ主張スルヲニシテソレノ政策ニ對シテ又
強硬ナル反對強アリ。茅拾貳回共產黨大會
ハ以テ根本的大問題ヲ提（テ）中心人物ハレニシ
ハ病氣ニテ整テ解ハス。列強勢ヲ動搖シ免レ結
ハサレバソレノ豫測セザル外國新聞紙中ニハ露国共

産黨ノ結束地後レ電報ヲ生スルニ至ル（レ）トサ（レ）噂
セルモノアリ。三月二十四日ニ開會スベシトノ豫報ハ四月
十五日ニ延期セザルニ終ニ四月十七日ヨリ開會レタルハ明カ
ニ以テ向ノ消息ト幹部ノ苦心トヲ語ルモノト云フヲ得ル。
露国ニ於ケル以テ種ノ大會ハ常ニ豫メ幹部ニ於
テ準備セラル様安未ヲ提出シ其ノ同意ヲ得ルニ
過ギズ。新^時ニ黨ノ機密ニ關スル事項ハ嚴密ニ秘ニ
附シ一切發表セザルヲ以テ往ニ奇外者ナレバ其ノ扶
心ニ觸ルヲ許サズ但シ其間ニ發表セザルニ至テ
物ノ報告演説ハ往露ニ政治状況ノ推移ヲ知ル
事考資料ト為スニ足ルモノアルヲ以テ尤ニ其要
旨ヲ略記スルヲセリ。

茅拾貳國露無共產黨大會ハ本年四月十七日
開會シ

「カリーメネフ」
ハ開會ノ辭ヲ述ベ先ツ「レニシ」ノ病状ヲ論シテ
陳述シ黨ハ金カヲ集メテ黨首回起ノ為メ
ニ所有手段ヲ講ジテカキテ主政治機關等ハ同人
ノ病状ハ快方ニ向ヘリト海断レ且ツ金快ヲ期待レ得
「レト聲明セリ」レニシハ大會ニ参加セズ其理想
ハ彼自身ニ依リ其所説ハ本大會ヲ指導スベシ當大
會ノ議案等問題ハ

一、工業問題

二、民族問題

三、國家及黨機關ノ改造問題

ナリトス。

次ハ大會ノ幹部及役員ヲ提挙シタル後

「レニシ」ニ「エフ」

ハ共產黨中央委員會ヲ代表シテ政治報告ヲ
為スベク演壇ニ立テ前掲三ノ問題ヲ解決スル
ニ當リハ茅拾貳國大會ニ於テ「レニシ」ガ宣シテ標
語即チ「週都終リ」ラ「年」記スベキニトテ指示セリ。
今又共產黨員ハ約五十萬人ヲ數ヘ共テ黨員ハ資
産階級トシテ年開ニ打勝ケ「レニシ」トテ初メテ
案書内ニ案ヲ上ルモノナリ。然レドモ吾人ハ之ニ成功
ヲ以テ是カ如クシ危矣。我黨ヲ如何ニ能ハスハ新

ルールに於て繼續シテアリトモウヘシ。勿論露露の戦争
ヲ欣ビテ高一ニ備ルル為メ準備シ置クヲ要ス。久
佛五ト關係ヲ執テハ吾人の欲レテ其交渉ニ歷スベク
佛五民ノ大部ハ吾人ニ同情ヲ有セリ。英五ト波
蘭ノ改革年備保主教ヲ至ガリトクシ及フトケ
ウケレテ裁判後特ニ敵教ヲ表セリ。然レ共
人ノ何五ト是ニ我内政ニ干渉スルコトヲ許サズ且テ
僕ガ為ニ常ニ國法ニ依リテ東亞洲ニシテ
國營商業ニ基礎ヲ築ク國ニシテ外人トノ合辦
會社ハ好果ヲ收メフアリテ、コレゾ、リースレ（露五本林
會社）。コレラ下、リースレ（和蘭本林會社）が短時間
内ニ偉大ナル成績ヲ擧ゲタルニ徴シテ之レヲ証シ得ル也。

穀物輸出問題ハ幕ヲ下シテ、ルールハ其之任レテリ。
吾人ハ穀物ノ輸出ニ依リ其市價ヲ高メントレ既ニ是
ノ四百萬石ノ輸出セリ。コレセシヨレハ一九二三年
中六ヶ申込數四百件ニ達シタルが其面目ナルモノハ僅
ニ五十件ニ過カス。一九二三年ハ一層多數ノ申込
タルヲ見込ナリ。本年一月及二月ニハ百件ノ申込アリ。
先加五ヶ申込タル四百五十件ニ達セリ。申込件數
ヲ區別シタル、独逸 百七十四件。英五 五十六件。
英五五十二件、佛五五十件ノ順序ニ在リ。
外資本ノコレセ、レヨレシル額モウタル額 五千萬石
留ニ置セリ。

新経済政策（以下露露五の略称を経て「不」上呼ぶ）
の實施を以てや其人の反映は新ナル資本主義政策
生レテ商業の事業の之が為メに没却せられ「不」上呼び
シテ實際の不」上呼び「不」上呼び「不」上呼び「不」上呼び
ニシテ商業の由五〇％の商家の機關之依「不」上呼び「不」上呼び
以て「不」上呼び「不」上呼び「不」上呼び「不」上呼び「不」上呼び
如シ。即チ、一九二二年の「不」上呼び「不」上呼び「不」上呼び「不」上呼び
四〇％の「不」上呼び「不」上呼び「不」上呼び「不」上呼び「不」上呼び
外に貿易の年「不」上呼び「不」上呼び「不」上呼び「不」上呼び「不」上呼び
六〇％の「不」上呼び「不」上呼び「不」上呼び「不」上呼び「不」上呼び

農民の問題に關シテは目下穀物相場低下の異常
生起し、農産物の比較的高價なる為メ
村落の疲弊シテ現ニ危機之瀕セリ。故ニ穀價下
高品相場ノ不平均ヲ調停スル為メ穀物の輸出
此之が平價ヲ釣り上げントシ「不」上呼び「不」上呼び「不」上呼び「不」上呼び「不」上呼び
之國シテは政府は只只とシテ種子播種ノ結果收穫増
加シ本年ハ五五億ホム、穀物の收穫ハ五億増
リ。之レニ對シテ農民の對シテ注意ヲ拂ヒタル結果
ナリトス。

商業の未だ好成績ヲ著セリト云ヒ難シト云フ
由ニ商業の強シト全部個人ノ年ニ移リ一九二三年
ニ「不」上呼び「不」上呼び「不」上呼び「不」上呼び「不」上呼び
人ノ年ニ移リ「不」上呼び「不」上呼び「不」上呼び「不」上呼び「不」上呼び
扱ヒテ、購買組合ノ取引ハ是ハ振ツテ理合

全運轉資本、四年四億圓に過らざらん。

→ スターリー

ハ共産党ト労働階級及農民ニ相互ノ聯絡
ニ関シテ従来シテ曰ク党ト労働者階級トノ聯絡ハ
カ一職業組合ニ依リテ支持セラルル昨年開催セシ職
業組合ノ大會ニ其組合員六百萬人ヲ数ヘタリカ
前年ハ四百半萬人ニ減セリ。但シ數ニ於テハ減少
セルモ團結ハ密ニ成リテ、組合員各自カ自覺シテ
セルハ注意ニ値ス。并ニ一連鎖ハ、コトヲ、
消費組合、及青年共産党等ニ高シク最後ニ共
産、又ハ党ト労働者及農民間ヲ聯絡スル機關
タリ得ヘシ何レトモハ其後ニ關シテハ其ノ三者ハ同一目的

為ニ融存一致スルベシナリ、

一 更に都市ト村落間ノ隔絶ヲ消シテ人熟練モ
共産党宣傳員ヲ地方ニ派遣シ決宣傳員ノ活動ニ
依テ之ヲ實現スル期ニシタリ。尤モ其ノ要ニ對シテ
注意ヲ要スルハ党ノ為ニ有クナレ開士ヲ選擇ス
ル事ナリ。初ニ中央委員ハ四百名ヲ派遣シ
得ベシト考案セリ。病死其他種ノ障礙ヲ為スル
僅ニ七百名ヲ動員シ得クニ過ラズ而モ其ノ七百
人中、有為ノ人物ハ五百名ヲ超ヘズ共産党員ハ
トラスト其他ノ事業ニ配属スルニ必要ナリ。
共産事業指導ノ任ニ當ル共産党員ハ全員
ノ二五%ニテ自餘ノ七一%ハ無所属ノ監督者ナ

り。故に我党の通告の時機に於て経略アル共
産党員ノ充實ヲ計ル必キアルニ拘ラズ我ノ現状
實ニ實心ニシテ状態を淨リ。其ノ故に共産党委員
會ニ醜態ニシテ為メ其ノ三首人ノ良党員ヲ有スルヲ得
必右種事業ノ監督者上故に好都合ニシテ宣傳
事業ノ監督者委員及外部成績ヲ呈シテ諸黨
計畫ヲ遂行スルヲ得ベシト。
フスターリレバ、演説後外に共産党員ノ代表
トシテ、マワク、マニスレ（英西）、レウ（佛西）
片山（日中）ノ統辭演説アリテ、其ノ一ノ有後ヲ
終リ。

フククニシレ

ウ十八日ノ演説に於て、演壇ニ顯レテ、曰ク、曰共産
党ノ基礎ハ二十年以前ニ築カレタルニシテ、後
又新シキ問題ヲ有ス、目下共産党ハ天下ノ公党
ニシテ秘密結社ニテス、實ニ共産党ハ大ニ政治ヲ支
配シ又政府ヲ組織シテ其ノ黨ニ當リ居レリ。
斯ノ如キ事業ニ對シテハ政治、財政、經濟、上ニ於テ
党ノ全強弱ヲ集中セカシメ、カシメテ、一印ノ重務ハ其
時務解決機ニ對シテ、其ノ政黨ノ監督者ニ監督者
下ニ置カシメ、必要アリ。是レ其黨ノ監督者カ事業
ニ干渉スルハ大ニ増カシメ、必要アル生業ヲ却テ阻
害スルハ、其ノ忘ル可カラズ、而シテ党ニ對スル至大ニ危

院ハ新経済政策ニテ之ヲシテ五人ノ生産力スルヲリ
多ク消費スルニテナリト。

四月十九日

フスノススキー

ハ「クラン」ノ意見ニ反對シテ曰ク「クラン」ガ外人
ニ對スル「フエンセ」レヨシヲ擴張セシトスルハ誤謬トシテ其
ハ出來得ル限り不利益ナル「コレ」レヨシヲ避ケ
テ以テ経済復興ヲ期セザレバカズ。農業資本
金ノ回款ニ「フエンセ」ノ設備相場ノ引上ケノ「フエンセ」及農
民之農具及低利資金ノ融通ヲ為スルヲ要スト。

「フ」ハーリ

ハ共産党中央委員ノ態度ヲ批評シテ曰ク「我党

ノ態度ニ大ナル危険ノ「フ」フ「フ」トシ「經濟」ノ尚「指」テ
離シ「全」別「途」ノ「新」動「向」ヲ執「テ」リスルニ「在」リトス。

中央委員會ニ對スル或ハ「經濟」ノ「回」ク「之」ニ「同」委員
會「カ」事「ニ」對「シ」テ「條」リ「ニ」議「論」多「ク」カ「故」ナリト云ヒ
他「ノ」人「曰」ク、中央委員會ハ「内部」ノ「危険」ニ「對」シテ
無「シ」テ「係」ナル「カ」故「ナリ」ト、然「レ」モ「之」ハ「フ」ナ「カ」ラ「ズ」強「シ」リ、何
レ「ト」レ「ハ」中央委員會ハ「尤」モ「公平」ニ「且」テ「次」ヲ「靜」ム「政」策
ヲ「以」テ「之」ニ「カ」故「ナリ」ト。又「ク」ラ「ン」レ「ニ」反「對」シ「テ」曰「ク」同人ノ「意
見」ハ「滑稽」トシ「テ」製「造」業者ノ「夫」レ「ト」一致ス、結果「カ」
生産力ノ復興ヲ「阻」ム「中」ハ「其」手段「ト」シ「テ」資本主義
ニ「依」ル「ヤ」ハ「社會」主義「ニ」對「シ」テ「同」フ「路」ニ「外」ス「只」「軍」ニ
生産額ヲ増加セ「ハ」足「リ」トス。而「シ」テ「其」見「地」

その中央委員會有ハ實業家ノ壓迫シテ資金
ヲ入得ハ列強國ノ主ニ其利ヲ得テノ實業ヲ提供ス
ニ敢テ辭スル所ナラズト云フ結果トナルコトハ勿論斯
レヲ吾人ハ生業品ヲ増カシ得ルニト思フモ之ハ社會的位
階ニ依ルニ非ズシテ實業的基礎ニ依リテ増カナリ。又或
曰ハハ吾人ハ階級階級ノ利益ヲ保護スルニ事ヲ以テ
若シ階級ノ自強ノ階級ヲ出ス得ルニ限リテ多ク
ヲ採取スルニト云フ又吾人ハ此階級カ國ノ統治スルノ
見地ニ立テサレバ如何ニ階級ヲ如何ニ統治スルノ
納メキヤハ正確ニ計算セザルニカラス又吾人ハ政治的
障リノ阻隔ハ果シテノ邊入等數多クノ危険アリト
考ヘラレカ故ニ大會ハ其條件大ニ之ニ依リ規律アル

我黨ヲシテ此ノ精神ニ背反セシムルカモシレバ
ニ轉化スルコトニ就テハ斷乎ク之ヲ反對ノ聲明スルヲ
要ス。ト、
「レジャー」ウエブ

中央一室期日、一ニノ港灣ニ於テ特殊貿易ノ
自由通関ヲ試驗的ニ行ハントスル案ハ、中央委員
會ハ此ニ際シテ意ヲ始メテ之ニ對シテ、斯ノ如キ試驗ハ頗ル
危険ニシテ猶更スルハ吾人トシテ其案ノ問題ヲ突
入シテ吾人ノ後方ヲ迷入スルニ恐ラレタリト、又
「レジャー」ウエブニ對シテ防止運動ハ繼續ノ必要ナルコトヲ
述ベ且テ其ノ方面ニ於ケル効果ヲ多少收メテアリテ
一九三二年十月一日ニハ「ワウエー」トシテ委員ハ二百六十萬人

ナリシカ一九二二年十月一日六百三十萬人ニ減セリ
 後リ之増著ノ数字ニ係リ多ク信ヲ措クニ足ラストスル
 毛兔毛角多クサノ増績ヲ舉ゲ得タルコトヲ窺知スルニ
 是レト同人ハ更ニ論シテ曰ク吾人若シ銀葉年事業
 總勘定ヲ為スバ、而シテ經濟的ニ印上レ初メタルヲ
 見レ然物ノ輸出ハ最モ重要ナル問題ノ一ニシテ之レカ為人
 ニ有力ナル而シテ機關ヲ設ケ農民ヲシテ一人タリトス
 其不必要ナル叫ハシメガルヲ要ス
 ナレノ一ツイエラレノ遺憾後所望出共産黨中央
 委員會ノ提出セルナリ十二回大會決議案末（内容初稿）
 附議セラル全會一致ヲ以テ可決シ黨ノ結束堅キコト
 事實定ム立証セリ。

「シギリヤートラ」

事業

中央監督委員會ト縣監督委員會、行政ニ
 関係シ説明、任セ高リ中央監督委員會ハ中央
 委員會ヨリ独立シテ其任務ヲ遂行シ、單ニ中
 央委員會ヨリ援助ヲ受クルニ過キテ其重要
 ナル問題ヲ解決ニ際シハ中央委員會ノ同意
 ヲ要ス、但シ中央監督委員會ノ決議ハ中央
 委員會ハ之ヲ變更スルコトヲ得ヌト云ヘリ。
 大會ハ中央監督委員會案ヲ全會一致ヲ以テ
 採決セリ。

「フハーリ」

ハ「ト」ナリナル委員會、活動ニ関シテ報告ス

曰ク一九二〇年ヨリ一九二一年ニ至ル間ハ資本組織ノ
急激ナル破壊時期トシテク得ク世界経済界ノ
危機ハ日本ニ其端ヲ設ケテ米英ニ移リ更ニ英佛
ニ傳播セリ而シテ一九二二年乃至一九二三年ノ列國
ニ普及復讐ノ兆頭ハ東リタレバ世界ノ経済ハ如何
ニ手改メ消スルトモ戰前ノ地位ニ復スルコトナク且
同時ニ軍國主義ノ漸次普及スルニ至リテ更ニ革命
運動ニ就キ述テ曰ク露西ノ西資主義及帝主義
義ノ諸國ヲ控ヘ東ニ現時漸ク混亂ト始メタル多數
國民ト相隣レ共ニ一興止而思潮ノ間カ在セリ。

吾人若シ東洋諸國ノ一般ノ傾向ヲ約言セバ殖民地
タルト否トハ同ハス概シテ革命氣分充溢シテナリト

カヲ得ルニ即チ日本ノ目下一九〇五年ノ露西ト
同状態ニ在リ印度ニ於テハ民族の革命ヲ意味
スル農民ノ騷擾擾絶ニ交テ即チ内亂繼續レ居リテ
其等ノ事實ノ就レテ全極東ニ至リテ革命思潮
ノ根莖深キヲ証スルニ是レ尚東洋諸國ノ農民覺
醒ノ運動勃興シ同問題ノ一部ノ勞働運動ナレバ他
邦ニ及リタル如ク運動ノ交渉ヲ有レ西歐及米英等
ノ帝國主義ニ反對セルモノナリ。要スルニ塔等東洋
殖民地ニ於テハ「コロタリヤ」ノ大ナル豫備隊存在セル
カ故ニ其態度ハ之レハ殊方ニ引ルル為メ如力カヤルニ
カ。東西ニ於ケル我党ノ活動方針トシテハ東洋ニ於テハ
反帝主義的の革命ヲ活動セシムルニ在リテ東洋

清國民に必要や帝主主義の組織、顛覆後の援助を
 ×して西洋の於てハ米一線トシテ勢力假者階級アリ故等ハ
 無産者党ノ其勢力圈内ニ包含ス×ト告「パトリック」
 「東洋民族ノ覺醒ニ対シテ注意ヲ拂ヒ之ニ迎ヘ合スル必
 要アリ」ト極力主張セリ。
 右演説後、大會ハ滿坊一致ニテ「インターナショナル」執
 行委員會ニ於テ露共産党代表者ノ事業業カ取
 認セリ。

トロツキ

同日夜、演説ニ於テ之業業ノ関スル報告演説ヲ為セ
 リ。曰ク「米ノカニ實施」
 (一) 生産力ノ増加ト (二) 社会政策ヲ實施セシメテ人々之レヲ

此ノカニ同意、吾人 村ノ至大ナル意義ヲ有スト述(次ニ
 同人ハ「米ノカニ實施」ニ對シテ生産力ノ増加ト得ルルヤ否カ
 ノ疑問ヲ提出シ此問題後明ニ為テ左記統計ヲ提出セリ。
 即チ露共ニ總收入(單位百萬金田)

年次	一九二一年	一九二二年
農業收入	六、七〇〇	三、五〇〇
工業收入	四、四〇〇	九二九
合計	一一、一〇〇	四、四二九

ニシテ右ノ内、文ニ書業、及中工業業ハ一九二二年ハ二、三三
 七億金田、一九二一年ハ二、三三億六千九百萬金田、一九
 二二年ハ二、九億五千四百萬金田ト總收入ヲ異年トシテカ
 故一九二二年ヨリ一九二三年ニ至ル間、於テ大中工業業

の割に少く、進歩が著しき。戦前より国内工業
及び工業の七億三千萬金圓の収入が見られ、一九三
一年の二億六千萬金圓、五二年の三億七千
六百萬金圓に達せり。若し数字上事実上の右
の掲げたる最を単純なる問題の解決するに充分なり
且つ露國の力減亡せしむるに足ると同時の新経済
政策が其動機となり、多しなりと云ふを得べし。
都市の村落との關係は従来極く原始的な経済状
態にあり、村落は都市へ原料を供給し、都市は村落
へ農具を供給す。吾人の今や進歩して、その時期を
シテ努力し、我々経済界が概して原始状態を脱せ
しむるに、工業界に於ては機械工業界に於て

頗る大なる比率の有力な工業界に於ては五トレノ
由農民の依りて從事せしむるに億乃至四億金圓の價額を
生産するに對しては工業界及び中工業界の九億五千四百萬金圓
の生産する吾人の工業界に對しては常に監視を怠らざるべし
何れにせよ、工業界と商業界との協同は個人資本の生産に
相対しては、公共資本の對しては、然るべきなり。
目下露國の工業界の敗壞は、何れにせよ、之を把握し、例
國が富田ノリトを以て、聊か疑問を以て、之を把握し、例
見れば、同様に、國營工業界の外、個人資本の利を以て、國家目
身の損失を招きつゝあり。露國の工業界は、各種の損失
の國內に在る者あり、外に、外資の本家、謂は
し、之を、商人及農家村之なり。今如何なる事、工業

が損失を招きつゝ又々損失を招きつゝ各事業は之皆見所
益ヲ得り更更之損失ナキが如シト是も實際ニ謂所然故
上ノ生産を未サカサレカカシ。之レ其業不白ノ後ヲ監視ス
為メ露也共産党が中央監督委員會ヲ新設シ必當ニ
進ムル所謂ナリ。之レ免テ南トシテ輕工業及中工業ニ着
シテ進歩シテ工業ノ一層良好ニ成績ヲ得ルベシトス
重工業ノ寧日後退シ前途ノ如ク否家納損害ヲ招キ若
レハ而シテ茲ニ吾人カ尤モ重大ノ視念ニ當ルニ於テ工業ノ
進歩ノ傾向ニシテ若シ吾人カ物工業ノ於テ損失ノ減少
ノ作業ノ必要達ナラズ得ルベシト人ニ既ニ勝利ノ地位ニ
到達シ得ルベシトナラズ意味スレバナリ。
又吾人カ工場ノ生産品カ何カ故ニ競争ノ貨物ニ比シテ劣

劣ナリトノ同類ノ計シキ工業ノ下施設カ餘リニ複雑ニカ
故ナリト答マシノ外ナリ。從テ吾人カ工業用ノ原料即チ
國産天産外カ消費スルニ其産額ノ二〇乃至二五%ニ過
キル者ニ於テカ吾人カ工業及生産物集中ノ必要ヲ感
シ近キ將來其ノ施設ニ改良スルカ一地理的并ニ商業的見
地ニ基キ事業ヲ類別シテカトラストノ組織ニ變更
シカニ計畫アリ最モ經濟會議ノ既ニ該問題ノ討
究ニ着手ナリ。
同人更ニ事業ノ決算報告豫想計畫損益對照
表及資金融通ノ必要ニ及レ金融機關ノ工業ノ支
助ニ主眼ニ機關ノ一タラカシカラスト。
最モ經濟會議ノ内ニ商業委員會ノ外ニ貿易部

トク係合シテ商工務部ノ一ツニミカリノトレハ為ルコトカ
救セシテ中ニ之ヲ決定スル必要アリ見スル者ト口ツキ
ノ考テハ工費ノ内外商費ノ同歩調ヲ執ルベシ
之ヲシテ外貨貿易ノノ際トシテ経済上重要ナル要素
トシテ工費ノ妨碍ヲ為スルカズ、寧ロ之ヲ援助スルベ
キナリ。加之、露露中ニ於テ外貨貿易ノ政府ノ独占地
域ニシテ如何ニ事情ノ変化ニシテ変更スルコトノ許カズ
至思ヒ之ニ至ル共ノ問題ナレバナリ。要スルニ露露中ニ於テハ
社会主義ノ勃興ノ勢ニ依リテ確信セラルル共
産党ノ政權ノ執ニ至ル共産党ノ所有、乃至外貨貿易ノ独
占ノ係ヲ断テナリトスルベシ
以上要スルニ露露中ニ於テハ本質的ニ経済政治ヲ集中シ

四月廿二日

カーメネフ

ハ村落ニ於ケル課税問題ニ関シ報告シ本問題ハ村
落ト無差ツククタクトトノ間ニ於ケル共助ノ關係ハ同
題ニシテハ空トト官憲ト農民及労働者階級ノ
援助ニ賴ル所多ク農民ハ村落ニ對シテ党ノ施政方針
カ変更セラルルヤ否カ之ヲ大ニ懸念シ監視シテ
アリ。共産党ト農民トノ共助ノ關係ハ先ツ一九二七
年十月廿五日公布セラレタル土地法ニ於テ之ヲ見ルコト
得レシ。同法ハ官憲ト農民トノ間ニ於テハ一固ニ條約

ト云フコトヲ得ルニ及ビ土地法ニヨリテ地主ノ土地ノ農民ノ
年ニ移リテ次々之由農民ノ官定トシテ之ノ条約ノ糧食稅
情ニシテ同法ノ意ト村落トシテ之ノ經濟關係ヲ確定
シ更ニ之ノ農民ノ為メ之數自當布及テ穀物ヲ取扱フメ
之ノ村落ノ開設シ農民ノ需要ニ應テ之ノ穀物輸出入
機關ノ資金ノ融通ヲ為シ以テ穀物相場ヲ引上ケトシテ之
ヲナリ

農民賦 課税ナルメテ負擔ノ重シクニテノ相及スル意

見テ有スルモノアリトナリトシテは農民ノ課税ニ對シテ何等
苦痛ヲ感シ居ル及以等税金ハ更ニ三億有留道引上ケ得
ベシト考ヘ居レリ。然レモフルレモハ金銀之及計シテ之ノ上
官定ノ租稅請求ノ政治的ノ許容ニ得ル經濟上ノ限

界ヲ越越セリト云フ。ハ論議會力及國民經濟上之多大
ノ必要ヲ感シテアルニ相違ナシ之政治的見地ヨリ村落
ノ負擔力ヲ考慮シ相當地上ノ税金ヲ賦課スベカラザルハ
明ナリ。今一九二三年一二年ノ豫算界ノ額ハレ
タル數ヲ見テ之ノ見テ之總豫算界ノ收入ハ指五億有
留ナリカ其中ノ農業界ノ收入ハ二五%ニ過カズ其他ハ
殘部農林ノ工業、商業及運輸ニシテ收入ナリトス。
而シテ農民ノ收入ハ直接間接ノ賦稅五千萬有セル
カ故ニ農民ノ年々歳入總額ノ二一%ヲ支拂フニ過カ
ズ而シテ之ノ農業界ノ總額ニ比シテ僅カニ其一〇%ニ相
當スルナリ。尤モ右ノ外仔細ノ豫算ヲ研究シタル統
計農林部都市工業界ノ生産品價額五億有留ヲ購入

セキルカカキルカ故ニ其業ノ貨物ニ課セズル同播後ヲ之員
控スルコトナレド

農民ノ困難ニ就テは貨物ニ依ル一視制ノ施行
ニ依テ緩和セラルル同視法ニ課税額ハ農民各戸ノ生
産力ニ照シテ相違スル様定セラルル者ナリ。又農民
救済ノ目的ヲ以テ政府ノ穀物ヲ輸出シ村落ノ為メニ市場
ヲ賑ハサレド尤モ之レカ為メ買入又ハ不買商人ノ在外
ヲ許サズ。農民ノ政府ノ仲立ニ依リ直接取引ヲ行
フコトナレド農民ノ為メ共黨政府ノ計畫ハ徹底セズト
テ希望シテ目下強硬ニ宣傳者及共黨青年團
体ニ事ヲ以テ都府^{都府}協同ノ理想ヲ宣傳セシメテナリ。
農民ハ其貧困ニ世帯ヨリ甚メテ各可^{各可}党費

ト革命ノ勝利ノ為ニ使用セラルルコトヲ知ラハルメカキル
政府ノ農民ノ消費力ノ貸出ヲ為シ穀物ノ取引ヲ自由
ニ置キ穀物ノ市價ノ昇騰ヲ期セシメス。

「カリ」ニシテ

採掘問題ニ関シテ述ヘテ曰ク、「由農民ノ思ハクハ共産
党ハ農民ニ重税ヲ課シ村落ニ對シテ不公平ナリ
ト、又余ハ嘗テ共産党ニ為テ労働者ト農民ト就テハ
等ナキトノ質問ヲ受ケタルコトナリ、余ハ之ヲ答ヘ労働者ニ對
シ及同シテ曰ク身體ニ於テハ七年ト七年ト孰カセカ重ナ
リヤト。共産党ハ市中ニ労働者農民ノ連鎖ヲ行ハ
シカド又客員ノ饑饉ニ際シ共産党ハ農民ヲ援助シ
シ老億六千萬ト云々、穀物ノ支出ニ饑饉善後措置ト

軍に全面的な要を求め、讓渡せしめ、其の各共知を例
へば「皆此の中」にアセルイヤン、ア下分ルキ地介的「言
一」ア「エム」ヲ先助成ス故ニ民族同別辨テ、安長ニ「座」テ
ラシムル民族即座ヲ「コロレカリ」ト思成民ト、双互的位類
ト理解トセリ。之レヲ實現セシカラスハ、西歐ニ「コロレカリ」
一ハ先、西歐人村造ニ進、其位類ヲ得ルルハ、必アトス
之「カ」働者ト農民トノ協調ヲ必アリスト、協調ニシテ、西歐
五ノ協働者ト農民同ニ協調ヲ成之セハ、異種族農民
民トノ合作ハ自由ニ之レヲ期待レ得ル。隨テ官公衛
ニ於テハ、各自其法ヲ使用シ、各自其法ニ其の秩序ヲ設スル
ニ致ラントスルニ是ヲサシムル。

民族同類ハ他方ニ於テハ、各民族カ其政ニ軍カスニ至民
權ニ至ラズニシテ、亦「カ」カス、隨テ「カ」カス「カ」カス、
其カヲ組織スルニ思成、其カ中「カ」後、其カ上、自衛隊、
「カ」カス「カ」及労働農民、西歐ノ経済、政治、及軍事事
業係ニ於テハ、各互平等、地位ニアラスカ「カ」カス、
是レノ實際ニ於テ (一) 民族各自ノ接近ヲ助スル
三個ノ要因ト (二) 互ニ協働スル三個ノ要因ト
即チ (一) ハ「カ」カス。
(一) 経済的接近及労働ノ分配
一、其カ「カ」カス「カ」カス「カ」カス「カ」カス「カ」カス
一、帝國主義カ其カ「カ」カス「カ」カス「カ」カス「カ」カス
又 (二) ハ「カ」カス。

四、党ノ組織ニ関スル件

五、行政及党ノ機関ト中央監督委員商スル件
六、民族問題ニ関スル件

其他ノ諸問題ニ新中央委員會ヲ引継ぎ同委員會ニ於テ相當ノ措置ヲ取ルコトニ確セリ

前掲諸項議決ノ後大會ハ中央委員會委員四十名を候補委員十七名中央監督委員三名

五十名を候補委員十名ヲ撰挙シテ新中央委員會ノ組織シテ如レシ

年委員、アンドレーエフ、カハリーリン、ウボレツコフ、
レエルダンスキー、エウトキエス、ガルツキ、
カレンスキー、カノウイエフ、カリーニン、

カーメネフ、クラウリシグ、キエロフ、
コマーロフ、コロトコフ、クレーパーク、
ラレーウキ、レニン、マヌイリニキ、

ニコヤン、ミハイロフ、モロトフ、
オルホヨニキツセ、ペトロフスキー、ピヤタコフ、
ラヂコフ、ラコフスキー、ルスターク、

ルイコフ、スミルノフ、ツエーリニユス、
スターリン、スリーモフ、トハスキー、

トロツキ、ウクマノフ、ウバーノフ、
フルシセ、ハリトノフ、ツエーリノバ、
カザン

候補委員

候補委員

候補委員

候補委員

ブブノーフ、 ユガノウキ、 レーブダ、
 スクルムポニク、 ルンヤレエフ、 ウルイウエフ、
 モユクウイ、 コシオール、 ケーボード、
 オラヘラシワリ、 ルイヌラーロフ、 シヤスニコフ、
 モローゾフ、 レアセ、 コロキローフ、
 バラエフ、 ナリマール、

右共ニ共産党幹部掃蕩後日本ニ到る者也
 大伴ノ日本共産党書記ニ就任ノ述、旧ソエ、
 共産党幹部ニ返服シ共産党ノ有、専断ニ先
 際おシ先決御、甚チ共産党カ十二回大虐、
 并ニ従者ニ表テ、最後ニソノイ、ソノイ、大
 會成後、再先決御的、以後アソノ大奮力終

始付均一致行前セシテ、後務シ、ソノイ、ソノイ、
 山岡有、ソノイ、ソノイ、

機密
第66
12.7.18

在米國日本大使館

附屬書類添附

警務部

第二課

機密

機密

機密第六九號

附屬添附

送付了

大正十二年七月二十一日

在米

特命全權大使 植原

在米國日本
特命全權大使
植原

外務大臣伯爵内田康哉殿

送付了

西露國共產黨大會ニ関スル件

本年四月十七日ヨリ二十一日迄莫斯科ニ於テ開催サレタル第十二
回露國共產黨大會ノ状況ニ関シ國務省ニ於テ作成シタル調
書今般同者ヨリ内容ニ入手致仕ニ付存寫茲ニ及テ送附候間
所査閲相成度此段申進候也

management, right of veto, must remain in the hands of the Commissariat of Foreign Trade." As regards foreign policy, during the period under review, this had been, in all important matters, "directed by Lenin and those next to him." Their policy at Genoa, the non-ratification of the treaty with Italy and of the Urquhart agreement were all the outcome of Lenin's directions.

As regards economic matters, Zinoviev said that this is the first Congress of the Party which has witnessed an economic revival of the country. He concluded his address with unstinted praise of the Central Executive Committee, of the Party in which, according to Zinoviev, "there is concentrated all that is best and strongest." Dictatorship of the proletariat in the shape of dictatorship of our Party is absolutely indispensable," if the economic condition of the country is to be improved and if the new economic policy is to operate in favor of the labor classes and not in favor of the bourgeoisie.

(b) According to a resolution of the Congress the plenary session of the Central Executive Committee of the Party is to consist of 40 members and from 15 to 20 alternates. Plenary sessions are to be held at least once in two months. The political bureau is to consist of 7 members and 4 alternates.

-13-

(c) With reference to membership in the Party, the Congress declared that the Party must by preference accept industrial laborers so as to strengthen the proletarian element within the Party. It is recommended that during the coming year industrial laborers "from the work bench" be accepted for membership if vouched for by two Party members, instead of three as hitherto. Members of the Union of Communist Youths are eligible if vouched for by one Party member.

(d) According to Riga despatch, No. 810, May 14, 1923, the political bureau of the Party now consists of Lenin, Trotsky, Kamenev, Zinoviev, Stalin, Tomsky and Rykov, with Bukharin, Kalinin, Molotov and Budzukov as alternates.

(e) Steklov's review of the results of the Congress is very weak and contains little of interest. He asserts that the Congress has given evidence to the world that there are no divisions or splits within the Party.

E. E. YOUNG.

-14-

gaging in preparing for war, he says "such are the boons to be expected from American and European civilization, which is at our gates, and against which we must wage a stubborn holy war."

Referring to existing conditions in China, Bukharin asserts that Communists there must form a bloc with the Sun-Yat-Sen faction on the basis of the "struggle for national liberation." Japan, in the opinion of the speaker, is now "on the eve of its '1905' which may become its '1917'".

In the capitalistic west", Bukharin finds that the first quarter of 1923 witnessed a revival of the labor movement, the principal obstacles encountered being the Social Democratic Parties and the Amsterdam Trade Union International. The Communist International now has 55 official sections, the total number of members being about two millions, not including the revolutionary trade unions. Communist papers to the number of 979 are published, of which 503 are Russian. "The improved condition of affairs in Soviet Russia" is assigned by Bukharin as the reason for the growth of the influence of the Communist Party, since it was difficult for the Party to meet the attacks of the enemy "as long as cases of cannibalism occurred in Russia, etc."

-11-

Referring to the various sections of the Communist International, Bukharin states that in France, despite persecutions, the Party "has grown exceedingly active; in Italy "the new movement has been crushed." In the United States, prior to the war, there was a big tendency towards revolutionary Communism, the supporters of which were chiefly immigrants Myself and Trotsky have also in our time distinguished ourselves there in that line." Now there is a legal party in the United States, the so-called Labor (Workers) Party which has scored good success, is carrying on work in the trade unions, is drawing over to its side part of the trade unions, and, "what is very important, is gaining a foothold not only among Russians, Jews, Ukrainians, Letts, etc., but also among Americans."

The Congress in its resolution approved the activity of the Russian delegation in the Communist International, recognized the difficulties of certain sections due to the growth of Fascism, and considered it its duty to assist "all brother parties", etc.

GENERAL

(a) In an address to the Congress, Zinoviev said, respecting foreign trade, that the conclusion had been reached, after long consideration, that "definite control,

-12-

The resolution declares the principal objects of the reform are (a) lessening the cost of the State administration, and (b) strengthening and developing the "organs of political power" which are in direct contact with the masses.

(5) The State Machinery (Administration), the Tasks of the Russian Communist Party and the Central Control Commission.

Derzhinsky, in reporting on this subject severely criticized the existing machinery of administration stating that it had inherited all the faults and short-comings of the former régime. According to Derzhinsky, red tape and officialdom have increased tremendously while an entire lack of initiative is the characteristic feature of all executive organs and institutions. He asserts that the much advertised reduction in the number of government employes is largely fictitious and contends that the present unsatisfactory condition of affairs cannot be improved unless the machinery "is entirely in our hands." This can be effected only through the agency of the Communist Party which can exercise its control through the Workmen-Peasant Inspection and the Central Control Commission. He recommends the abolition of the old Workmen and Peasant Inspec-

tion and the Central Control Commission. He recommends the abolition of the old Workmen and Peasant Inspection and the organization of a new one.

The resolution adopted by the Congress affirms that the administration of the State must be cleansed of all alien elements, a task which in the opinion of the Congress, will take years to accomplish.

The resolution states that this work should be performed by the Workmen and Peasant Inspection and the Central Control Commission" which must in their turn be extended and reorganized. New workers in these institutions should be drawn from devoted Communists, laborers and peasants."

6. Communist International.

Bukharin, reporting as Russian representative on the Executive Committee of the Communist International, delivered a lengthy address in the course of which he reviewed conditions in foreign countries from the standpoint of communism.

He contends that the task which the capitalistic world set for itself has not been solved and that the economic life of the world is "in a state of deep fermentation." Alleging that all capitalistic countries are en-

way any to this new onslaught there is danger of a rupture between the proletariat and the peasants of the formerly oppressed nationalities." Continuing, he says that there is a revival of local chauvinism in Georgia, Azerbeidzhan, Bokhara, and also in Turkestan, which threatens the "international ties" between the various nationalities. In order to avert a rupture Stalin contends that the Soviet system must be "brought nearer" to the national peasants, -- schools and institutions must employ the national language and customs of the people. To solve the "national problem" he proposes three measures: -

- (1) Soviet rule should adapt itself to local national requirements;
- (2) The Communists should be reorganized so that the "fundamental" nationalities should have their representatives in the various collective bodies;
- (3) That a supreme organ of the League (Union of Soviet Republics) should be created which would deal with the needs of the various nationalities.

He also advocated a two-chamber Central Executive Committee, one chamber being elected, as at present, by the Congress of Soviets, while the other chamber would be composed of members elected by the different republics and national districts.

The resolution adopted by the Congress declares that "The Communist Party grant every nationality the right of self-determination and political independence and recognizes the principle of national equality and sovereignty." The new position resulting from the formation of the Union must be strengthened by doing away with "the remnant of Great Russian national chauvinism, which is still very strong among Soviet officials and in Soviet institutions."

A special federal organ should be created in which the various nationalities should be represented with equal rights.

(4) Administrative Divisions and Sub-divisions.

Rykov presented a plan for the rearrangement of administrative divisions, suggesting a largervolost which would assume the cultural burdens now imposed upon the ; an okrug (province), and oblast or region. He is of the opinion that the entire future economic development would be based on the oblast organization.

In acting on Rykov's report the Congress approved, in principle, the proposed changes but declared that the scheme is to be considered merely as a preliminary working hypothesis." For the time being the plan is to be put into effect only in two "regions" (oblasts) in the Ukraine.

and even burned." Inaccurate and fraudulent calculations (book-keeping, statistics, etc.), are bitterly complained of by the speaker, who quotes the Workmen's-Peasants' Inspection as authority for the statement that "80% of our calculations are unfounded," and adds that it can be readily believed that the remaining 20% "are absolutely no good."

Regarding foreign trade, Trotsky says that the monopoly of foreign trade is as firm a support of the Soviet régime as is the dictatorship of the Party and the nationalization of means of production. The fuel "crisis" of 1921, the sales "crisis" of 1922, and the raw materials "crisis" are charged to faulty and inadequate plans and to weakness and helplessness of the State machinery. Referring to Lenin's statement that the New Economic Policy was inaugurated in earnest and for a long time, but not forever, Trotsky says that we started it in order to defeat it with its own weapons. "Our successes on the basis of the New Economic Policy will approach, or should approach, its liquidation, its replacement by the Newest Economic Policy, which will be the Socialist Policy."

Incompetency on the part of the members of the

boards of management of trusts is complained of by Trotsky who cites Kuybyshev's Commission as reported, after investigating 28 trusts, that "everywhere the boards of management are formed without ability, without system, without care."

The discussion or general debate in connection with Trotsky's report brought out little of interest. In closing the debate Trotsky again made reference to the so-called raw materials "crisis" and added "there is in store for us another still more painful crisis, the crisis of our foundation capital." The financing of industry is to be continued but the deficiency must be kept within the subsidy. In concluding Trotsky said that "all our hopes for a development of socialistic economic life are based on four factors: dictatorship of the Party; the Red Army; nationalization of means of production; and monopoly of foreign trade."

The resolution, if any, adopted by the Congress in connection with Trotsky's report on industries, was not forwarded by Riga.

(3) Russian National Feeling and the Minorities.

Stalin stated that the New Economic Policy has encouraged "Great Russian Chauvinism," and that if "we give

Kalinin, in his report to the Congress, offers no suggestions as to how relations with the peasants may be improved, contenting himself with a statement to the effect that "we must see to it that taxation, on the one hand, does not press too much on the peasant, and on the other hand, that it yields palpable results."

The cost of the administration of the Government and "local administration" constitutes 20% of the budget, according to Kalinin. He admits that this is rather high, but points out that the Soviet apparatus has a "great variety of branches."

Sokolnikov, Commisar of Finance, complains that taxation is not organized on a rational basis, and recommends that the three taxes, tax-in-kind, citizen's monetary tax and local taxes be replaced by a single uniform tax.

The resolution adopted by the Congress reiterates the opinion that the strength of the Soviet régime is in the alliance between laborer and peasant, that the lot of the peasant was considerably improved by the introduction of the tax-in-kind, but that it is now opportune to replace the tax-in-kind by a monetary tax.

(2) Industries. The principal report on this subject was presented by Trotsky. The speaker submitted cer-

tain statistical data, according to which the total income of the country amounted to:

In 1912 -----	11,000 million gold roubles			
" 1921 -----	4,500	"	"	"
" 1922 -----	5,000	"	"	"

The value of the output for the large and medium industry was given as:

In 1912	3,700 million gold roubles			
" 1921 -----	669	"	"	"
" 1922 -----	954	"	"	"

Trotsky attaches great importance to the increased output during 1922, but a little further on in his address he admits that during the past year (1922) industry has operated at a loss, "that is to say -- we are poorer now than we were a year ago." He adds that "where there are any seeming profits, they are the result of complicated and mysterious arithmetical manipulations."

The importance of grain export was emphasized by Trotsky, who asserted that the United States during the war captured 90% of the Russian markets and is now producing a surplus of grain which is "fed to the pigs

XII CONGRESS RUSSIAN COMMUNIST PARTY - MOSCOW,
APRIL 17, - 26, 1923.

The resolutions adopted by the Congress indicate no intention to effect any radical departure from the present policies of the Party. The reports submitted and the discussions in reference thereto clearly establish, however, the fact that the present condition of affairs throughout the country is causing much concern to the leaders of the Party. Suggestions as to how an improvement might be effected were many and varied, but all were, as usual, largely of a theoretical nature.

Questions to which the Congress devoted special attention were:

- (1) Attitude of the peasants;
- (2) Industries;
- (3) Russian national feeling and the minorities;
- (4) Administrative divisions and subdivisions of Soviet Russia;
- (5) The State machinery and the Russian Communist Party;
- (6) Communist International.

(1) Attitude of the peasants toward Communist Party and central authorities; taxation of peasants.

Kamenev quotes Lenin to the effect that "The social structure of our Soviet Republic is based on the collaboration of two classes - laborers and peasants -" and then discusses this topic at considerable length. He asserts that the "first agreement" concluded with the peasantry - which was given expression in the land laws - has been fulfilled. The second agreement was incorporated in the decree providing for the institution of the tax-in-kind. The danger of the new economic policy is that the petty bourgeois peasant element "is developing bourgeois tendencies." Whether the peasant will be drawn toward us or repelled will depend on whether we can give satisfactory replies to his questions - such as - "What facilities for export do we offer?" "What prices can we pay for his grain?" "What prices do we charge for nails?" etc.

According to Kamenev, the peasants contributed last year through direct taxation, 17% of the total revenue of the State. This year the amount has been increased to 21%. To assist the peasant, says Kamenev, the State must reconquer the foreign grain markets lost by Russia as a result of the war.

極密公第七
號附屬物

甲号

譯文 第二七七七四號

千九百二十三年七月十一日

在哈爾濱國際共產黨代表

「ブリエル」殿

國際共產黨宣傳課ハ本年七月三日付訓令第二四八
三號、實行ハ外務次官「カラハン」ノ請求ニ依リ繰上ク
ルノ必要ナル旨在京城朝鮮部長「ワ、ケ、エ、ン、グ、リ」ニ移
牒セラレンコトヲ請フ

右ニ基キ在京城朝鮮部長ニ對シ右訓令ノ初メニ
箇條ヲ實行スル様申入レラレタシ

宣傳課長「サイ……………」(自署)

書記「ゴジチ……………」(自署)

在滿洲里日本領事館

JAPANESE CONSULATE
HARBIN, CHINA

Пролетарии всех стран присоединитесь

Испоком

Сов. секретано

3-го Интернационала

Агитационно-Пропагандное
Отделение

Упокоминтерну тов. БЛИЕРУ

Харбин

Восточный под,отдел

11 дня Июля 1923 г

№ 27774.

Агитпропагандотдел Коминтерна, настоящим просит Вас передать Начкорейсекции Сеула тов. Ца-Чиенг-Ли, что исполнение инструкции от 3-го Июля с. г. за № 2483, необходимо ускорить, согласно просьбы Замнаркоминдела тов. Карахана.

На основании вышеизложенного, предлагаю Вам, предложить Начкорейсекции Сеула, провести в жизнь первые два пункта упомянутой инструкции.

Нач. Агитпропагандотдел

Сайд... /подп/

Секретарь Го.... /подп./

REEL No. 1-1372

0299

乙
号

譯文 第二七七六號

一九三三年七月十日

在哈爾濱

國際共產黨代表「ブリエール」殿

「コムインテル」委員長「ラデク」ハ朝鮮半島ニ在ル朝鮮
バルチザン^{本報}ハ正確ナル人数並ニ武器ノ員数及品質等
至急通報アル様 貴殿ニ申入ル、右調査ハ訓令第
二四八三號ニ関レテ要ナリ

同時ニ「ラデク」ハ本書提テ人特使「ロプーヒン」ハ十一
萬圓ヲ所有シ同人ハ朝鮮部中央委員會ニ送付シ
為メスラ貴殿ニ交付スヘキコトヲ通知ス 右金額ハ前
記訓令、部分的實行ノ為メ國際共產黨執行委

在滿洲里日本領事館

員會ニ於テ所定セルモノナリ

宣傳課長「サイ」……………(自署)

書記「ゴジ」……………(自署)

在滿洲里日本領事館

~~JAPANESE CONSULATE~~
~~大日本領事館~~

Пролетарии всех стран соединитесь

ИСПОЛКОМ
Ком
3-ГО ИНТЕРНАЦИОНАЛА

сов. секретно

Агитационно-Пропагандный
Отдел

Восточный Под,отдел

Уполкоминтерну тов ВЛИЕРУ

11 дня Июля 1923 г.

Харбин

№ 27776.

Предкоминтерн тов. РАДЕК предлагает Вам, в срочном порядке, сообщить точное количество корейских партизан находящихся на территории корейского полуострова, инструкторов, а также количество и качество вооружения. Данное необходимо в связи с инструкцией № 2483.

Одновременно тов Радек извещает Вас, что представитель сего курьер тов Лопухин имеет в своем распоряжении сто десять тысяч ⁰¹¹² /110/ иен, которые он передает Вам, для отправки в Ц.К. Корейсекции. Данная сумма предназначается Исполкоминтернам на частное выполнение мероприятий вышеупомянутой инструкции.

Нач. Агитпропаганододел

Сайд.../подп./

Секретарь

Год .../ подп/

REEL No. 1-1372

0301

丙号

譯文 第二七七五號

千九百二十三年七月十一日

露國共產党中央委員會書記

スクリヤンスキイ 敬

露國共產党中央委員會長「ブハリシ」氏ノ命ニ依リ
宣傳課ハ貴殿ニ對シ参考ヲ並ニ指導ノ為メ本年
七月三日付第二四八三號 國際共產党中央委員
會訓令ノ追加寫ヲ茲ニ及送付候也

宣傳課長「サイ……」(自署)

書記代理 自署

宣傳課 印

在滿洲里日本領事館

追加寫
極致

京城國際共產党中央委員會

革命司令部長「リ・イ・シ・セ」殿

寫送台先 哈爾濱國際共產党中央委員會「フリエ」

奉天 全 「フクス」

北京 全 「マシ」

上海 全 「エロフスキ」

國際共產党中央委員會幹部及内閣並ニ革命軍
軍會議代表「エハルト」參加ノ總會ニ於テ在支那朝
鮮代表在日本及支那全權代表「ヨッフエ」及「ダフヤン」
通常報告並ニ在元山國際共產党中央委員會「ベツケル」

在滿洲里日本領事館

報告ヲ聴取シ尙極東政狀ニ関ルル東方専門家外務次官「カラハン」、東洋學教授「イワノフ」、コレベジツキイレ及在浦潮外務代表「ハビシ」ノ報告ヲ聴取セリ
意見交換ノ後總會ハ國際共產黨執行委員會ニ對シ第三「コムインテル」ニ合併ノ提唱、下ニ積極的團體及朝鮮人ノ日本軍閥トノ革命戰支持ノ案ヲ作成シテ必要ナル旨ノ通知ニ依リテ之ヲ實行スルコトヲ委任セリ
但シ右行動ハ朝鮮人民ノ積極行動カズニ社會主義「ソウエト」共和國同盟政府ノ参加セル事實ヲ與ヘサル様至大ナル注意ヲ要ス

右總會ノ決議ハ國家會議々事録ニ第八二五六七一號トシテ内閣議長「ウラジミル、レーニン」(ウリヤノフ)署名ノ下ニ露路國共產黨中央委員會會長「ブリハン」ノ証明附

在滿洲里日本領事館

ニテ記載セリ

右ニ基キ國際共產黨執行委員會ハ前記問題ニ関スル行動ノ詳細案ヲ作成シ立案後猶豫ナク在支露路國代表「ダフチヤン」ヲ經テ電報アリタシ

本訓令ノ主旨ハ日露交渉ノ進行ノ如何ニ拘ハラサルモノトス、詳細ナル訓令ハ貴殿ヨリ行動案ノ授受後續クハク尙同案ニハ實行ニ必要ナル金額並ニ貴殿所有及追加ノ金額ヲ示サレタシ

本文書又ハ寫ヲ通過セシメ若クハ所持スル友人ハ總テ必要ノ經過後又ハ通讀後即刻燒棄スヘキコトヲ通告ス

國際共產黨執行委員會會長「カルム、ラデク」

書記

「クララ、ウエイキン」

在滿洲里日本領事館

右の原本と相違無し

宣傳課長 [サイ……] (自署)

在滿洲里日本領事館

REEL No. 1-1372

0304

ДОПОЛНИТЕЛЬНАЯ КОПИЯ

сов. секретно

Предревштабу Корейсекции Коминтерна Сеул,
тов. ЛИ-ИН-СЕБИ

копии Упонокоминтерна Харбин тов. БЛИЕРУ,
Уполкоминтерна Мукден тов. ФУКС, Уполкоминтерн
Пекин тов. МосИНУ, Упокоминтерн Шанхай тов.
КРОВСКОМУ.

На пленарном заседании Президиума Исполкома Коминтерна и Совнаркома, с участием представителя Реввоенсовета тов. Эверта, было заслушано очередная информация кит. и корейуполкоминтернов, полпреда в Японии и Китае тов. Иоффе и Давтян, а также доклад секретаря Коминтерна в Гензана тов. Беккера, а также был заслушан доклад о политситуации Дальнего Востока востоковед тов. Каракана, проф. востоковедения тов. Иванова, Лебедицкого и Уполнаркоминдела в Востоке тов. Хавина.

После обмена мнениями пленарное заседание поручило Исполкоминтерну выработать, и по уведомлению о необходимости, провести в жизнь активную организацию и поддержку корейскому народу в его революционной борьбе с япмилитаристами, под лозунгом присоединения к Третьему Коминтерну, соблюдая величайшую осторожность, дабы

активное выступление корейского народа, не дало бы фактов участия в них Правительства С.С.С.Р.

Данное решение пленарного заседания занесено в журнал государственных заседаний под № 825671, за подписью Председателя заседания В. Ленина/Ульянова/ и засвидетельствованное Пред. Ц.К. Р.К.П. тов. Бухариным.

На основании всего вышеизложенного, Исполком Коминтерна предлагает Вам выработать детальный план действий по вопросам указанных выше, сообщив, по выработке проекта, через полпреда С.С.С.Р. в Китае тов. Давтяна.

Суть данной инструкции в зависимости от хода работ Япруссконференции. Подробная инструкция будет выслана по получении от Вас проекта действий, при котором укажите сумму, необходимую для проведения в жизнь, равно, как у Вас имеющихся, так и дополнительную.

Всем товарищам, чрез коих пройдет или будет находиться данный документ или копия, сообщаю, что по истечению надобности или прояснению - сейчас-же, сжечь.

Председатель Исполкома Коминтерна Карла РАДЕК

Секретарь

Клара ЦЕИТКИН

С подлинным верно:

Нач. Агитпропагандотдел Сайд.. /подп./

JAPANESE CONSULATE
東京領事館

Пролетарии всех стран присоединяйтесь

ИСПОЛКОМ

3 ГО КОМИНТЕРНАЦИОНАЛА

Агитационно-Пропагандное
Отдел

под,отдел

Секретарю Ц. К. Р.К.П. тов.

СКЛЯНСКОМУ

11 дня Июля 1923 г.

№ 27775.

Согласно распоряжению Председателя Ц.К.
Р.К.П. тов. БУХАРИНА, Агитпропагандотдел
посылает Вам для сведения и руководства, прилагаемую при сем дополнительную копию инструкции Исполкома Коминтерна от 3-го Июля сего года №2483.

Нач. Агитпропагандотдел

Сайд... /подп./

Ва Секретаря А.В.... /подп./

丙字

сов. секретно

REEL No. 1-1372

0306

門
類
項
號

要再回

機密

機密

文書課長

歐

長
長
印

第二十八號

大正十三年九月十日

附

附

淨書

校正

淨原

歐
課

五

共産党及共産党會儀

受信人内務省警保局長 廣田政米局長

大正十三年九月十日

大正十三年九月二十八日

浦添ニ於テル國共産党ノ活動ニ關スル件

大正十四年七月四日 記録係

REEL No. 1-1372

0307

機密
受第 250 號
12.10. 8

手
記

蘇翁 第二課 五

機密第二四六號

綴込名

宣傳

大正十二年九月二十八日

在浦潮斯德

大正四年七月四日

記録係 接掌

總領事代理領事 渡邊理



外務大臣男爵伊集院彦吉殿

浦潮斯德於今國際共產黨ノ活動ノ関スル件

本件ノ関シ七月三十一日附致一機密第八二號貴信

ヲ以テ國際共產黨ノ機關タル此黨主義宣傳學校

南地存在否ノ解明方少訓令ヲ趣致致致依テ

右取調テ處具具體の内容ハ目下南地ノ情報ノ下

シテ調査甚ク困難ニ至得テ大體厄記ノ通リ有之

云々有存スレド知相成度ニ依リ回報申進云 敬具

記

当地「スエトラスカヤ」街ノ労働者學校 (Cobzarovskaya)

ナルモノアリ本年春頃ノ設立ニ依リ維持費其

他ノ諸経費ハ第三國際共產黨ヨリ保手支出セシ

ルニモナリ 修業年限ハ十ヶ月ニテ入學資格者ハ十

ニ歳以上二十歳以下ノ青年男女トシテ国籍人種別ヲ

問ハズ唯シテ産党員ノ推薦ニ依ルモノトス 目下ノ在

學生ハ約一〇〇名ニテ産党女子十四名 鮮男子二十七

名(内五名ハ新移民高麗生産党青年会員ニテ他ハ地方産党

青年会員ナリ) 鮮女子三名(新移民高麗女子革命青年会

員ナリ) 其他ハ悉ク産党男子ナリ 科ヲ分テテ「ソウエト」

革命歴史科及共産党員宣傳科トス 修業期間ハ

全生徒、教員、総て被服及食費ヲ給シ寄宿制度ナリ
現在自由講堂ニシテ規程ヲ授業ヲ施ササルニ十月
中旬「千夕」ヲ正式ニ教師ノ赴任アリ然レ後始メテ授業
ヲ開始スル由卒業後、旅ケル彼等ハ未ダ塔屋虎員ト
ル能ハス副委員長トシテ止マリ其ノ所屬ハ塔屋虎機関各
官、願合社ニ就職スルモノナリ邦人ニシテ入學セルモノニ
名アル由多一名ハ山口某ト云ヒ一名ハ姓名不詳ナルガ在否ノ
眞偽定カテラス

於テ南地極東大學政治科ニ最近入學願書ヲ出シ
受理セラレタル邦人四名アリ 田中幸三郎(ニク安高
店員) 田中亀一(ニク九文高店員) 藤田健治郎(ニ
ク三文) 溝田某(ニク四文)ト云ヒ其ノ其ノ系統ハ色彩等
同ク調査中ニシテ其ノ久 以上

在浦潮日本總領事館

本信寫送済先

丸山新報局長、大塚内務局長

普通
第 1724 號
12.10.18

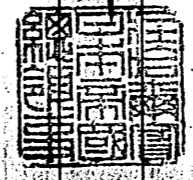
警備部 第二課

公第六七九號

大正十二年十月三日

在哈爾濱

總領事 山内 四郎



外務大臣男爵伊集院彦吉殿

萬國共產黨本部日本労働者宛

檄文ニ関スル件

本件ニ關シ十月二日發行ノソリブーナ紙カ日本政府ハ
社會主義者ヲ虐殺ストノ題下ニ左記ノ如キ記事ヲ

在哈爾濱日本帝國總領事館

掲載セリ

萬國共產黨本部ハ日本並ニ全國ノ労働者ニ向フテ
發セル檄文ニ於テ日本ノ帝國主義的政府ハ天災ニ
乘シ大々的ニ拘留若クハ殺害ノ方法ヲ以テ自己ニ
不利益ナリトスル人物ヲ除滅セント努メツ、アリ逃
亡ノ恐アリトナシ大杉氏ヲ殺害セシ遺口社會ノ耳目
ヲ掩ハントスルモノニシテローザリユクセシタルカ乃至ハリ
ブラネフトヲ殺害セルト其ノ軌ヲ一ニス共產黨本部ハ
日本ノ労働者諸士カ方略ヲ別タス職業諸同盟ト行
動ヲ一ニスル綜合委員制ヲ組織シテプロレタリマトハ
農民ト協力ノ下ニブルジョア政府ヲ倒滅シ日本ニ勞

農政府ヲ組織スル爲戰闘ニ着手スヘキコトヲ勸告
ス云々
右御参考迄此段及報告候 教具

在哈爾濱日本帝國總領事館

REEL No. 1-1372

0311

門
類
項
號

要
再
回

文書課

歐米局長

文書課長

長
檢
印

普通第九七六號

寫

送

大正十二年拾月拾九日接受

歐米局長

大正十二年十月十日

朝
附

淨書 佐伯 校正 原

大正十二年七月四日 記録係接受

共產黨友若産党会藏

受信人

岡田

廣田

廣田

廣田

廣田

廣田

廣田

大正十二年十月三日附公第六七九號在哈爾濱由總務課通信
莫不共產黨本部日本労働者統制文ニ關スル件寫

十二月十一日

モスクワにて

大竹博吉

共産党内の競争に於て

レニンは共産黨政治の眞髓を中央に権主義は置いた、聖固な

統一を維持だけが革命の目的を守護する權威ある實力をもつ唯一の
方策だと信じてゐた。

共産黨

二、此の爲めにレニンは黨の諸機關、行政の要部に自己の信頼す
る黨員を配置し之に依つて最下級の機關まで掃き去る組織として
固めた、此のやり方をレニニズムを名づける者がある。

三、斯のやがな状況の下には選挙制度は空文であつて任命により要
所が向められねばならぬ、黨員内の地位には新陳代謝が行は
れるとどがなく幹部の中心から流れ出る勢力と地位の連絡は放射
線形を爲して此の連絡線外に立つ者を引出す機會がない。

四、此の状況に對する反抗運動が黨内の自由主義者へ幹部線外に立
つところのことは依つて提唱され始めた、レニニズム修正派、幹部
反対派と名づけられ又は共産黨内左黨、中央民主派と稱されるも
のである。

神々

五、右修正派のいふ所希望する所は選挙が自由に行はれ又討論が自
由に行はれるといふ原則を保護する爲めに事實上に效果ある方法
を講ぜよといふにある、現幹部が其の地位を保つのは又地方に於
て現幹部の鼻のかゝつて居る者が勢力をもち多数黨員が幹部專制
に壓迫されるのは選挙に依り新しい黨内の空氣が生れるといふ
機會がないからだといふのである。

六、今度の問題に關する競争の結果幹部派が勝つたことは電報で報
じた通りである、然し幹部派が色々な弱點を暴露したことは争は
れない、各支部黨員の幹部を支持したのは第一には共産黨中央委
員會は共産黨の最高機關であるといふ黨則の上から若し中央委員
會を支持せぬといふことになれば現在の共産黨を全然改造すると
いふ結果に陥るといふ虞れがある、第二には各支部を牛耳つて居
る幹部の多数が現中央委員會の放射線勢力に入つて居る關係から
支部の輿論を中央委員會に有利な方へ導くといふ作用をした、幹
部派の弱點暴露といふ側では支部の決議中に幹部を支持しつつ今
日までの幹部の態度を非難したものが多数にあつたことである。

「二」ツ、ク

そして自由主義的な修正派の意見に対し知識ある共産黨の青年階級が深い同情をもつてゐることも注意せねばならぬ、此の争ひを一面から新派と舊派、老人と青年の衝突だと見ることも出来るのである

七、或人は現在の修正派が勝つた結果黨内の中心勢力を掌握した
ら彼等は如何なる態度を取るかといふ問題について、彼等もやはり新らしい勢力のゲモの巢を作り自己の勢力の維持に努めるだらうといつてゐる。若し理論通りに行けば修正派は自由選挙の下に（之は勿論共産黨内の事で反対黨を政治結社として許すまでは行つてゐない）希望ある者が改選毎に幹部の椅子を占め失敗したら又選挙に依り他の一派の共産黨員が選ばれて政策を行ふといふ譯である。言ひ換へれば共産黨といふものを「プロレタリア獨裁」といふ言葉、他の國ていふ共和國とか帝國とかいふ國家の基礎的體系と同じ廣義なものに見て、此のプロレタリア獨裁といふ國體（？）の基礎を無視せざる限り黨内の各自の政策に対する意見の相違により自由に集團を作り此の集團を中心として言論、選挙の自由

「三」ツマク

を保持せしめんといふ譯である、之はレーニン主義の絶対統一主義に反する考へ方であり、トロツキズムと名づけられるものである。八、小生は今後は都會に於てトロツキズムが歓迎され始める時代が來ると思つて居る。

「四」(丁)